

令和2年度第2回社会教育委員会議事録

第2回社会教育委員会議概要

○開催日時 令和2年8月3日(月)13時30分～16時30分

○開催場所 舞鶴市中総合会館 401会議室

○出席委員 江上委員、大泉委員、亀井委員、川上委員、田中委員、谷口委員、畠中委員
福原委員、藤村委員 計9名

○事務局等 地域づくり支援課飯田課長、公民館担当村尾課長、中公民館館長、西公民館館長、南公民館館長、城南会館館長、加佐公民館館長、東公民館館長、生涯学習支援係佐藤係長、秋本

・研修の部

1. 講演の部

演題 「夜久野の郷づくりと公民館活動」～社会教育の力でできること～

講師 福知山市夜久野地域公民館 館長 大本 夏代氏

第1部 活動紹介

- ・地域の講座を通して、現状ではいけないと知り体験しながら学ぶ。そこから成長する自分や仲間をみることが地域の財産となる。
- ・学習と連帯の輪づくりを意識して活動を行っている。

第2部 事業づくりの実際

- ・公民館を利用しない方が、これなら参加してみたと思えるようなイベントを考える。
- ・すぐにできなくても、できる方法を考える。他人のやる気をそがない。(未来志向)
移住の方と積極的にかかわる。よそから来た人の発想を生かし失敗を恐れない。
これらを心がけて講座を考えている。
- ・講座を成功させ、地域を発展させるためにも地域の中にリーダー的存在をつくり、地域の輪をつくる必要がある。

(休憩)

・会議の部

1. 挨拶

福原会長より挨拶

- ・コロナウイルス感染症対策を考えた、新たな人との関わり方を今後考えないといけない。
- ・講演会を聞き、キーポイントとなる方とつながるためにもたくさんのことにアンテナを張らな
いといけないと再認識した。

2. 議題

「集いの場のあり方について」

事務局から説明

福原会長 事務局からの説明について委員から意見ををお願いします。

田中委員 大正琴の講師として20年間やらせていただいて、自分自身が成長したと感じている。公民館の講座を講師として通っている中で嬉しかったことは、講座を館長さんが受けたいと言ってくれたこと。恥ずかしかったが一緒に受けてくれることで、館長さんが地域の方と知り合いになってくれ、生徒さんや私が館長と親しみやすくなった。次どのような講座にしようかなど、なんでも相談できる関係になれたことがよかったと感じる。大正琴の講座から公民館とつながれた気がして嬉しかった。

前半の講演で雑談からアイデアなどうまれることが多いと聞きその通りだと感じた。いきいきセミナーで大正琴の演奏をしてみないかと誘われたがあまり長時間は自信がなかったが、この会話から少しの時間ならと、公民館のちょっとコンサートがうまれた。これは雑談やたわいもない会話からうまれたアイデア。これが先ほどの講演の未来志向につながるのかなと再確認した。

畠中委員 人を集めるためには、お祭りやフェスティバルなど人の興味がありそうなことをする。参加者も自分の興味が催し物にあれば参加し、参加者同士話が進んでいく。イベントを開催する時も、小さい子から高齢者まで、地域が丸ごと関わると来年もイベントがあると期待して長く続いていく傾向がある。また一人しっかりしたリーダーがいても続いていくと思う。魅力ある人にはどんどん人がついていくので、リーダーが学び、いろんなことを経験していれば自然と人が寄ってくるし、リーダーがしっかりしていると今後も次の人にバトンタッチしやすく、続いていくのではないかと思う。だから、本当のリーダーが育っていなかったら、イベントは無くなってしまう。そのためにもリーダーは育てていかないといけない。育てるのも小さいうちから必要だと思う。育てるとき、自分もそこに入ったりしないと面白くないし、人任せになってしまうから小さい子に積極的に運営側に参加してもらう。イベントに参加し最初は発言を求めて自分も関わっていると感じてもらう。そのあとに、みんなが自ら発言したり、イベントに参加しないといけないと意識をもてる地域になることが必要。

今回の講演の夜久野地域では、地域全体がみんなでやろうと思っていた。だから夜久野地域はうまくいっている。市長も地域の方と一緒にやろうと思っていた、市長から意識が一本化しているし、しっかりしたリーダーもいるからイベントは続いていると思った。

藤村委員 先ほどの意見に補足して、私はリーダーについていくほうだからそちら側の立場として、リーダーから役割を与えてもらえるとついていきやすい。小さい子でも頼まれると喜んでやるし、大人でも役割があるとみんなの役に立ったと思える。そんな感覚が大事なのではないか。

普段人とすれ違っても、会釈程度で会話には発展しないが犬の散歩で犬を通じて出会うと他人と話を広げられる。好きなことを通じてなら人はつながると思う。犬も一つのツールとして大事であると感じた。犬と通じて他人と話が広げられるのに、舞鶴にはドッグランのような犬が走れる場所がないので、作ってほしい。

川上委員 ドッグランは青葉山ろく公園でもできたらいいが、場所とかなんかあった時の責任問題からなかなかできていない。今後検討していきたい。

私は、スポーツ協会から出ているから公民館の事についてはわからないが、人が集まるところで考えたら一緒かなと思う。今はコロナで活動ができていないが軌道に乗れば元に戻ると思う。でも、学生と違って社会人は一回休むと体が楽な方向にいつてしまい、リーダーの方が一回休むと次動

くことが難しくなる。コロナで多くの活動が休止しているなかで、こういうことを考えると元に戻ることに厳しくなっているのではと心配している。練習などスポーツをやらないといけないと思っても、なかなか続かない。スポーツの団体に参加する方も自分が好きなものには入るし、嫌なものは入らないのが現状。

亀井委員 論点の視点の一つ目の人が集まったきっかけ、集まることでみんながつながった出来事について。最近、学校の指導要領が社会全体で子供たちを育てるに変更してきている。先生たちの働き方改革もあり行事や授業数が減っていく中で、子供たちをより高いところにもっていかないと行けなくなっている。だから、公民館と小学校が連携できないかと考えた。例えば、公民館講座の川掃除やしめ縄づくりなど、授業に取り入れて行いたかった体験を講座でまかなう。時間数の関係からあきらめて教科書だけの授業になっていて、その時に公民館講座の案内を見て、公民館講座を取り入れようと考えた。学年に合わせて課題の視点を変えながら親子で公民館講座にいった感想や親からの一言を日記帳にしてもらおう。親子で参加することで、家庭内で会話もうまれたり宿題と一緒に見てあげたりなど関わり合いが生まれる。よって、公民館講座に子どもたちがよく参加するようになった。活動の少なかった自治会が自ら避難訓練のような事業を考えてスタンプラリーに取り入れてくれないかと提案があったりする。先生は子ども達からどんな体験をしてきたのかしっかり聞き取るだけで忙しくならず、子供たちが地域の活動から多くを学べるようになった。今年度も行いたかったが、コロナでできなくなってしまった。また、狙いをはっきりしないと学校から講座に行ってくださいとも言えないのでそこをはっきりさせて今後も公民館と連携できないかなと考えている。

大泉委員 個人的に藤沢周平読書会をおこなっていた。そこで学んだ中で大事にしていることは、人の感想を否定しないということ。この委員会でもみんな正解を言おうと努力すると思うが、そんな必要はない。社会教育委員の会長さんは正解を求めようとしないので、個人的には良いなと思っている。

毎年フジバカマまつりを開催しているが、今回はコロナ感染予防のため大人だけでやろうと考えている。協力はするけど強制はしないという考えから、みんなができる活動を会員さんをお願いしているところで、今年も匂い袋を作るのに刈り取りして乾燥させる作業がある。今回は地元の方だけでおこなっていて、学生と一緒に活動できないため、中学生がメッセージをくれた。それに今年は、地域の方が学校の行事に参加できないため挨拶運動だけ参加している。だから最近は短い時間を大事にしたいと思うようになった。

今年はできていないがラジオ体操をいつも開催している。そこで学年別に役割を決める。出席を取る学年、ハンコを押す学年など役割を与えてみる。このように地域の子供が行事に参加したときは、子供に役割を与えることが必要だと思う。役割があると子供たちに自信つき、自身で出欠取ることで地域の方を知ることもできる。

江上委員 私は福知山で30歳代の一人暮らし。若い単身世代は、地域の集まりに参加しないと講演で言っておられたが、同じ立場の私は地域の方からまったく声がかからなくて行事などに参加しにくいと感じる。家賃から自治会費が引かれるだけでずうずうしく会合に顔を出すことができない。利用の少ない年代の参加率を上げたいなら、こういう人にダメもとでも協力を依頼することが大切だと思う。言われないと逆に迷惑ではと考えてしまう。役割があると参加しやすい。30歳代にな

んとなく期待するのではなくて協力を依頼することも大切である。夜久野公民館では30歳代後半の方にまちづくり協議会として一緒に考えてほしいと役割を与えておられた。だから、地域の活動も続いているのかなと感じた。お願いする時に、協力をお願いするけど強制はしない。先ほどの大泉委員の言葉は、重要なポイントであると感じた。大学講師として依頼を受ける際、強制的にお願いされ、できないと怒られることがある。大学のカリキュラム的にできないこともあるが、どうにかして協力したいと考えるが急に怒られるとこちらも、もういいやとなってしまう。だから先ほどの相手を思いやるのがポイントになると思う。

教員立場からの意見で、今の小学校のコマ数は30年前とほぼ同じだが今は土曜日に授業がないため、一日のコマ数が増えていると思う。だから地域の方は学生や若い世代にあれやって、これやってと頼むがそれはなかなか難しい。やらないといけないことにプラスするのではなく、若い人が地域の行事に参加するように大学の授業の一部や若い世代の仕事の集まりなどで、半分業務の一環で地域に参加するような仕組みをつくるのが大切。

谷口委員 つながりの場を作ることが私の仕事で、その一つとして青葉山ろく公園のログハウスでおでかけひまわりを実施した。スタッフ6人でシャボン玉、ヨーヨー釣り、金魚すくい、書道などをした。人手が少なかったが、小さいころからこういう遊びに参加していた子が(今は小学4~6年生)ヨーヨーや金魚すくいのポイを作ってくれたり、店番を手伝ってくれた。この流れから人が育っていると感じる。子供たちが成長している姿を見せると今の赤ちゃんの親が自分の子供がこのように成長するのかと感じてもらえる。相乗効果みたいになる。メインはシャボン玉だが、忍ばせるテーマに児童虐待の防止や、この地域で子育てしてよかったなと思ってもらえるようにと考えている。日常とイベントのバランスは程よく取らないといけないので、イベントも程よく開催し人がほっとするような場、居場所を作ることが大切だと感じる。バランスをヒントにイベントを考えている。

福原委員 みんながつながる集いの場について、公民館職員からなにか意見はないか。

前羽館長 公民館にはそれぞれ地域性があるが、南公民館での課題は若い人の利用が少なく募集を求めても参加が少ない。若年層に繋がりとはなにかと聞くと、snsと答える人が多い。われわれ世代は地域愛を持つことができるから、一緒に汗を流すことが大事と考えている。若い人の参加をなんとかして増やせないか。そのためにも地域の方や事業所の方に働きかけることが大切だと感じている。また、人の成長は継続して学べることが大事だと思うから、自学から地域づくりに展開していくことが大切では。一つの例として、講演会とウォーキングを実施した。ちゃったスポーツに協力依頼し体力測定会をした。その時に自治連から防災訓練を一緒に実施したいと依頼がきた。一つの講演会が地域の見回りと防災につながった例である。

児童の事件は登校時よりも下校時に多いので、3,4時に積極的に歩いてもらう。見回りから地域に還元する。今年は地元の協議会の人と集まって南公民館の小学校校区を歩いてもらいな、危ないところ、見えにくいところをあつめて安全マップを作りたいと思っている。

西野館長 4月から初めて城南会館館長に就任し、一つの間人間関係が大切だと考えている。公民館側から考えて事業は、小学校のカリキュラムに邪魔になるのではと思っていたが委員さんの話を聞き、逆にコラボできるのではと感じた。事業展開的には、お勤めの方向への講座が少ないと思っているので増やしていきたい。

岸本館長 西公民館館長です。去年建議書を作る時に、公民館ではこんなことができるのではと多く考えていたが、館長になるとは思っていなかった。去年の話の中から、青葉山ろく公園で開催した聴覚障害者とのコラボで、小学生たちが障害者と普通に関わろうとしていた。小学生たちが、なんの抵抗もなくコミュニケーションを取ろうとしていてすごいと思った。このイベントから小さい頃からコミュニケーションを取らせることが大事だと感じた。西公民館で行っている子供発明クラブは小学校4～6年生までの20人程度が参加している。その事業では別の学校、学年もばらばらで班を作り体験してもらっている。学校から公民館とのコラボを提案してくれるとありがたいし、大切だと思うからみんなが参加できる事業を考えたい。小学生の参加には親の協力から成り立っている部分が多いので、親が忙しいから参加できない子をなくせるように、バランスよく事業を考えていきたい。今年度は事業がほぼ決まってしまうから来年度から取り組む

有本館長 中公民館の館長です。社会教育は高齢者、生涯教育のことだと漠然と考えていた。何か月か館長を行い、子育て支援、高齢者支援に視点を置いてやっていかなければならないと感じた。子育て支援は世代間交流の中心になりまた、講座の中心となると思うので取り組んでいきたい。事業は今年決まってしまうので、来年から頑張っていきたい

森下館長 東公民館館長です。東公民館は現在事務所のみで、貸館は行っていない。来年からは、まなびあむができるので、世代間の交流を大切にしたい。

東公民館の自主事業は中止ばかりで、世代間交流できてない。ふれあいサンデーも地域の方と交流できるイベントの一つだが、今年にはできない。以前行ったハーバリウム講座は人気が高いものだったが、受講料が高くはなかなか人が集まらなかった。ブーム、金額、開催時間を考えて事業を開催しないといけないと感じた。来年は新しい施設で、世代間交流を考えて頑張りたい。

澤田館長 加佐公民館館長です。分室は地域のふるさと塾の事務局としている。ふるさと塾ではハゼ釣り、歴史についてなど、公民館事業と加佐の若い方のコラボ事業で行っているもの。これからも地域の方と関わりながら事業を開催したい。

福原会長 やはり各世代が関わるのが大切。公民館とコラボすることで、各世代が関わることで感じました。30、40代の男性は、いろんなところに参加すると役を押し付けられることが多くなかなか参加しにくいですがそこは協力していきたい。リーダーも必要だが周りが協力することも必要。役員に協力するなど地域全体で、リーダーを育てれる環境を作りたい。ゆるやかにつながれるように企業で地域の方とつながる、ゆるやかに公民館事業で軽く集まるなど、何かできないか探していけないかなと思う

佐藤係長 集いの場のひとつに青葉さんろく公園がある。遊びの中でまなびの場をつくるのは大事でいろいろできたらいい。集まれる場、遊びの場を提供したい。

川上委員 ちゃったクラブは、もともと地域スポーツクラブ。今まで全部趣味で関わるが多かったけど今は違う。いろんな企画をしても財源的なことから難しくあきらめることもある。難しい世の中になったと感じている。決められた予算でやるのは難しいから、事業をするならいろんなイベントを予算化してほしい。公民館も地域の団体とコラボして開催してほしい。

畠中委員 館長さんの話をきけたのは有意義だった。いろんな館長さんの努力が知れた。いろんな人と対話できてよかった。勉強になったし楽しかった。また館長さんと話がしたい。

福原会長 会議は終了。

3. その他について

事務局から説明